

選択的評価事項 B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本学の理念・目的に則って、正規課程の学生以外の教育サービスの在り方を「山形大学のあるべき姿」「中期目標・中期計画」に掲げている。

1. 教育サービスを通して、大学の持つ人的・物的資源を社会に還元し、もって地域文化の向上及び生涯学習社会の実現に寄与する。
2. 総合大学の利点を最大限に活かし、社会の求める多様な学習需要に応える。
3. 教育サービスの提供を通じて、社会の多様な政策課題を発掘し、政策提言を行う。
4. 教育サービスの提供を通じて、地域に貢献する新しい研究課題を発見し、より高い研究成果の実現につなげる。
5. 大学の持つ物的資源等を広く社会に開放し、その有効利用を促進する。

上記の目的を実現するために、以下に掲げる目標を設定している。

- (1) 開かれた大学として、公開講座をはじめ、科目等履修生・聴講生制度、社会人のリカレント教育体験入学その他各種研修・セミナーを実施する具体化目標としては、次の3点である。
 1. 生涯学習、技術・技能の学習、資格の取得、時代を反映したテーマ等の多様な企画を設定する。
 2. 年齢別、職業別等の観点も含めて、多様な参加者、利用者を確保する。
 3. 総合大学の人的資源を活用し、学部別ないし学部横断的な多彩なテーマを企画する。
- (2) 教育サービスを利用しやすくする視点としては、次の3点である。
 1. 教育プログラムの周知方法の多様性・一般性・大量性等の視点
 2. 利用手続きの簡便性の視点
 3. 利用機会の広域性の視点
- (3) 分かり易く質の高い教育サービスを提供する。
 1. 組織的対応による企画・運営体制を確立する。
 2. 利用者、受講者の声を企画に反映させるシステムを確立する。
- (4) 市民が主体となる生涯学習を支援するために、行政機関やNPO・ボランティア団体その他市民各種団体との連携を図る。
- (5) 次世代の知的関心を喚起するため、小・中・高等学校と協力し企画・プログラム開発を行う。
- (6) 地域の各種審議会・専門委員会・研究会の委員として参画する。
- (7) 附属図書館、附属博物館、農学部附属農場・附属演習林等の豊富な物的資源を開放し、地域文化の活性化に貢献する。